

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地					
鹿児島キャリアデザイン専門学校		昭和63年12月19日		東 祐二		〒 891-0141 (住所) 鹿児島市谷山中央二丁目4173番地 (電話) 099-267-2411					
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地					
学校法人原田学園		昭和34年10月20日		原田 賢幸		〒 891-0141 (住所) 鹿児島市谷山中央二丁目4118番地 (電話) 099-268-3101					
分野	認定課程名		認定学科名		専任認定年度	高度専任認定年度	職業実践専門課程認定年度				
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程		こども学科		令和2年度	—	令和3年度				
学科の目的	近年、幼児を取り巻く環境の変化に伴い、保育現場における子育て支援が変化しつつあり、それらに柔軟に対応できる保育者・教師の資質向上、専門性の高度化が求められている。本学科は、保育士・幼稚園教諭二種・社会福祉主事任用資格を取得し、子どもの未来を育てるプロの保育者として、また乳幼児だけに限定した学習にとどめず、その先の発達も見通せる保育者養成を目的とする。										
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	取得可能な資格: 幼稚園教諭2種免許・保育士資格・社会福祉主事任用資格・赤十字幼児安全法支援員・おもちゃインストラクター・メンタルケアカウンセラー® 中退率: 13% ボランティア: こまつばら幼稚園(クリスマス会、ひな祭り会、絵本の読み聞かせ)、しらゆきこども園(しらゆきフェス) 作品製作・展示・体験ブース: 鹿児島市主催「首とあかりの散歩道」										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技		
2年	昼	※単位時間、単位いずれかに記入	1,950 単位時間	1,425 単位時間	150 単位時間	480 単位時間	0 単位時間	0 単位時間			
生徒総定員	生徒実員(A)	留學生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)							
100人	75人	0人		0%							
就職等の状況	■卒業生数(C)		28人		28人						
	■就職希望者数(D)		28人		28人						
	■就職者数(E)		28人		28人						
	■地元就職者数(F)		27人		27人						
	■就職率(E/D)		100%		100%						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		96%		96%						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100%		100%						
	■進学者数		0人		0人						
	■その他										
	(令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報)										
■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) 認定こども園・幼稚園・保育園・施設等											
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無						
当該学科のホームページURL	https://www.harada-wakuen.ac.jp/career/subject/child/										
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)										
	総授業時数		390 単位時間		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		390 単位時間		うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	うち必修授業時数		390 単位時間		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		390 単位時間		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間				
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(B: 単位数による算定)										
	総授業時数		単位		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位		うち企業等と連携した演習の授業時数		単位
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	うち必修授業時数		単位		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)		3人						
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)		4人						
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)		1人						
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人						
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人						
	計				8人						
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				6人							

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業や関係団体等と連携を図り、新たに必要となる実務に関する知識・技術・技能を授業科目や授業内容に反映し、学生に教授していく為、企業や関係団体等からの意見を十分に活かし、カリキュラムを見直し、改善を図る等の教育課程の編成を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

(1)の基本方針に従い、教育課程編成委員会を設置し、各学科の教科構成について実務に必要とされる知識・技術・技能などが、該当する学科のカリキュラムに反映されているかを確認する。
教育課程編成委員会で指摘を受けた内容について、各学科にて分析・検討し、改善すべき項目を委員長である学校長に報告する。学校長が必要と判断した場合には、改善点を各学科の教育責任者に指示する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
竹内 香代子	一般社団法人 鹿児島市保育園協会 常任理事	令和5年8月1日～ 令和7年3月31日(2年)	①
大橋 紘一	社会福祉法人常盤会 顧問・理事	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	③
橋口 大祐	認定こども園 吉田南幼稚園 園長	令和5年8月1日～ 令和7年3月31日(2年)	③
東 祐 二	鹿児島キャリアデザイン専門学校 校長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	—
福元 清美	鹿児島キャリアデザイン専門学校 こども学科科長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	—
濱田 恵利子	鹿児島キャリアデザイン専門学校 こども学科教員	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	—
早瀬 勇介	鹿児島キャリアデザイン専門学校 こども学科教員	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (7月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年7月28日 10:00～12:30

第2回 令和5年3月8日 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

- ①保育現場で急激に進むICT化に対応するため、学習内容の検討を進めている。現場としても、保護者に対する通知を画像で行うと反応が良いことや、使用するにあたって個人情報の管理の徹底や、ルール・フォーマットを作成が必要だということ、PCはあくまでも手段であって、伝える内容等の本質的な部分が必要だということ意見を頂いたため、これらを踏まえて令和5年度から学生1人1台PCを導入し、保育現場で実践できるPCの活用方法を学生へ伝えている。
- ②保育現場で通用する学生を育てるにあたり、保育現場で働く覚悟のある学生、機転の利く人材が欲しいという意見や、失敗体験や時には汗をかくような経験をする必要であるため、農業や清掃活動など身をもって経験することも必要という意見を頂いた。その他にも、普段の仕事にしっかり取り組めるレベルの文章能力がついていること、資格を取って終わりではなく、様々な経験を通して資格が使える人材に成長できることが大切であるとの助言も頂いた。様々な学習や実習、アルバイト等を通して、困難なことにも前向きに諦めずに取り組めるよう、経験の積み重ねの大切さや、それらがやがて自己肯定感に繋がって現場でも柔軟に対応できる人材になるということ、今後の学生への指導の中で伝えていく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実習、実技、演習等は専修学校の教育にとっては非常に重要なものであるため、常に最新の技術や技能を教授する必要がある。そのために本校と企業や関係団体等が密接に連携した体制を構築し、より実践的な職業教育の質の確保ができるよう組織的に取り組む。

また、連携を行う企業等とは協定書等を締結し、校内外で実施される実習・演習等について、指導内容やその学修成果の評価等も含めて、実践的な職業教育を行うものとする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

(1) の基本方針に従い、次の項目について連携を行う。

- ①カリキュラムの作成
- ②実習・演習の計画及び実施
- ③成績評価及び進級判定等に関する助言
- ④その他の実習運営上に必要となる事項

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
教育実習	1回目では「幼稚園教諭二種免許状」を取得するための必須の単位であることをしっかりと認識し、実習を開始するにあたり「幼児期の生活と発達の特徴」「幼稚園教育の基本と目標」を確認する。2回目では1回目での学習を下地として、幼稚園教諭としての知識・技術を身につけ、教育観を深めていくことを目標とする。	つばき幼稚園・たにやま幼稚園・いにしき幼稚園等 23園
保育実習Ⅰ(保育所)	これまで学習した理論を基礎として、保育現場において生きた保育技術を学び、人間性豊かな保育士を養成することを目的とする。	こぼと保育園・ひろき園・影原保育園等 33園
保育実習Ⅰ(施設)	これまで学習した理論を基礎として、保育現場において生きた保育技術を学び、人間性豊かな保育士を養成することを目的とする。	やくし乳児院・桜島学園・川内精舎等 20園
保育実習Ⅱ	Ⅱでは保育実習Ⅰでの実践を通して学んだ技術と理論を基礎として、保育士として必要な資質や能力、技術を修得する。家庭と福祉の生活実態に触れ、福祉の視点をもった保育士養成を目的とする。Ⅲでは保育実習Ⅰで習得した知識や理論を踏まえ、施設養護に関わる保育士としての職務内容と役割を実践的に学び、深い児童観と人間観をもって子育て支援に必要な能力を養うことを目的とする。(ⅡまたはⅢのいずれかを選択)	伊敷同朋保育園・東開保育園・おひさまこども園・なぎさ保育園等 25園
保育実習Ⅲ	Ⅱでは保育実習Ⅰでの実践を通して学んだ技術と理論を基礎として、保育士として必要な資質や能力、技術を修得する。家庭と福祉の生活実態に触れ、福祉の視点をもった保育士養成を目的とする。Ⅲでは保育実習Ⅰで習得した知識や理論を踏まえ、施設養護に関わる保育士としての職務内容と役割を実践的に学び、深い児童観と人間観をもって子育て支援に必要な能力を養うことを目的とする。(ⅡまたはⅢのいずれかを選択)	

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員等の研修に関する諸規程第2条のとおり、教員は業務経歴や能力、担当する授業の分野に応じて、実務に関する知識、技術、技能の修得および学生に対する指導力等を修得するために、企業等と連携を図り、研修等を計画的に受講し、常に自己研鑽に努め、教育水準の向上を図る。

(2) 研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名: 全国保育士養成セミナー	連携企業等: 一般社団法人全国保育士養成協議会	対象: 教員3名
期間: 令和4年8月25日(木)・26日(金)		
内容: こどもたちへ繋ぐ自然と文化, そして命		
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名: 多面的にとらえる「心理的安全性」の本質	連携企業等: NTTラーニングシステムズ	対象: 教員2名
期間: 令和4年6月1日(水)～オンデマンド配信		
内容: 「発言しやすい環境づくり」だけでは陥る課題と推進策		
研修名: 大変化の時代に勝ち残る 専門学校経営戦略とは	連携企業等: (株)FCEエデュケーション	対象: 教職員6名
期間: 令和4年6月15日(水)		
内容: 「2039年ショック」に備える専門学校の勝ち残り戦略, 教育力の向上および主体的な学生を育成する教育機関になるために		
研修名: 心理支援の現状から見えること	連携企業等: 原田学園そうだん支援事業所	対象: 全教職員
期間: 令和4年7月26日(火)		
内容: 事例を交えた学園内の心理支援の状況報告と, そこから感じた教職員に必要なスキルのワーク		
研修名: 7つの習慣セルフコーチング	連携企業等: (株)FCEエデュケーション	対象: 全教職員
期間: 令和4年8月1日(月), 5日(金), 22日(月)		
内容: セルフコーチングスキル=「ありたい自分になるために, 客観的に自分と対話する技術」を身に付け, 自分の「無意識の思い込み」に気づき, 「自己対話力」を高める。		
研修名: 令和4年度新任教員研修会	連携企業等: 職業教育・キャリア教育財団 鹿児島県研究研修事業支部 委員会	対象: 教員3名
期間: 令和4年8月23日(火)～25日(木)		
内容: 「専修学校教育のあり方と授業実践」ほか専修学校教員として必要な基礎的知識の修得		
研修名: 能動的学修 (職業人としての汎用的能力を養うアクティブ・ラーニングの体験学習)	連携企業等: 職業教育・キャリア教育財団	対象: 職員1名
期間: 令和4年9月5日(月), 6日(火)		
内容: アクティブ・ラーニングが必要とされる背景と考え方について		
(3) 研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等		
研修名: 全国保育士養成セミナー	連携企業等: 一般社団法人全国保育士養成協議会	対象: 教員3名
期間: 令和5年9月2日(土), 3日(日)		
内容: つながり		
②指導力の修得・向上のための研修等		
研修名: 7つの習慣セルフコーチング スキルアップ研修	連携企業等: (株)FCEエデュケーション	対象: 教職員6名
期間: 令和5年6月22日(木), 28日(水)		
内容: 「7つの習慣セルフコーチング講座」実施に向けてのスキルアップ研修		
研修名: 防犯研修	連携企業等: 職業教育・キャリア教育財団	対象: 全教職員
期間: 令和5年7月21日(金)		
内容: 「さすまた」等を利用した不審者対応研修		
研修名: データから見る2024年度入学生に求められる学生指導とは	連携企業等: (株)進研アド	対象: 教職員8名
期間: 令和5年7月25日(火)		
内容: 入学者数減少と学力低下が専門学校教育に及ぼす影響		

研修名:	新任指導力(メンタリング)	連携企業等:	職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和5年8月9日(水), 10日(木)	対象:	職員1名
内容:	新任指導育成のための目標管理力/新任の能力を引き出すためのメンタリング力の修得		
研修名:	令和5年度新任教員研修会	連携企業等:	職業教育・キャリア教育財団 鹿児島県研究研修事業支部 委員会
期間:	令和5年8月22日(火)~24日(木)	対象:	教員4名
内容:	「学生・教員のための実践心理」「専修学校における職業教育」ほか専修学校教員として必要な基礎的知識の修得		
研修名:	変化する社会に求められる人材の傾向と分析	連携企業等:	ベネッセコーポレーション
期間:	令和5年9月20日(水)~22日(金)	対象:	教職員2名
内容:	社会の変化が及ぼす教育への影響, 企業への実態調査の報告, 専門学校教育事例紹介		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について自己評価を行うことにより、学校としての組織的・継続的な改善を図る。また、自己評価の結果に基づいて行う学校関係者評価の実施とその結果を公表することにより、適切に説明責任を果たすとともに、特色ある学校づくりを進めることにより、関連業界等のニーズを踏まえた質の高い職業教育を教授できるよう学校運営の改善と学校教育の発展を目指す。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	①学校の理念・目的は定められているか ②社会のニーズ等を踏まえた学生の将来構想を抱いているか ③学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ④各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2) 学校運営	①学園の運営方針に沿った事業計画が策定されているか ②運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ③人事、給与に関する規程等は整備されているか ④教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ⑤情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	①業界のニーズに沿った教育課程の編成を行っているか ②教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ③学科等のシラバスは体系的に編成されているか ④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ⑤関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ⑥関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ⑦授業評価の実施・評価体制はあるか ⑧職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ⑩資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ⑪関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ⑫職員の能力開発のための研修等が行われているか

(4) 学修成果	①就職率の向上が図られているか ②資格取得率の向上が図られているか ③就職先企業を訪問するなどして卒業生の実態を把握しているか
(5) 学生支援	①進路・就職に関する支援体制は整備されているか ②学生相談に関する体制は整備されているか ③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ④課外活動に対する支援体制はあるか ⑤経済的支援制度利用についての情報提供を行っているか ⑥必要に応じて保護者との連携が図られているか ⑦卒業生への支援体制はあるか ⑧高等学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6) 教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ②学内外の実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか ③防災訓練を定期的実施しているか
(7) 学生の受入れ募集	①学生募集活動は適正に行われているか ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ③授業料等、徴収する金額はすべて明示しているか
(8) 財務	①学校の収支のバランスは取れているか ②予算編成は教育目標・業務計画と整合性があるか ③財務について会計監査を適切に実施しているか ④財務の情報公開はされているか
(9) 法令等の遵守	①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ④自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ③地域に対する公開講座やイベント支援等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	①留学生の受け入れを行っているか ②留学生の受け入れ、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ③留学生の学修・生活指導等が適切に行われているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(1) 「1.教育理念・目標」に関し、「学生がより教育理念・目標を理解しやすくするために行動指針を添えてはどうか」とのご意見をいただいた。目指す職業が異なっても、全学生が社会人としてふさわしい行動ができるよう、ディプロマポリシー等に基づいた行動指針の策定に向けて、検討を進めていく。

(2) 「5.学生支援」に関し、卒業生への支援体制について改善の余地があるため、まずは卒業後にアクセスしやすくなるよう、ホームページの卒業生向けの内容を充実させる。そのうえで、Uターンや再就職等の更なる支援体制強化にも取り組んでいく。

(3) 「9.法令等の遵守」に関し、個人情報保護、肖像権、法令順守等について様々なご意見をいただいた。学校で取り扱う個人情報は幅広いため、現状の取り組みを確認するとともに、職員一人ひとりがより高い意識を持って個人情報保護や法令順守を行えるよう、研修その他各種注意喚起を行っていく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
重山 茂 仁	株式会社鹿児島頭脳センター IT事業部 次長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	卒業生
大橋 紘 一	社会福祉法人常盤会 顧問・理事	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	企業等委員
宮之原 明子	株式会社清友 代表取締役	令和5年5月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等委員
新納 武彦	鹿児島情報高校 校長	令和5年5月1日～ 令和7年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/files/joho-kokai/R04_gakkouhyouka.pdf

公表時期: 令和5年8月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

情報提供の方法は、誰もが比較的容易にアクセスすることが可能な本校ホームページにて公表する。

また、企業や関係団体等の学校関係者に対しては、年度始めに学校関係者評価委員会を開催し、学校長より当該年度の運営方針等を説明し、様々な教育活動の情報の公表を行った上で、実践的な職業教育のための更なる連携を深めるよう依頼を行う。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	①教育理念 ②学校の概要(連絡先等) ③学校の沿革 ④学則等 ⑤「鹿児島キャリアデザイン専門学校」の3つのポリシー
(2) 各学科等の教育	①修業年限・定員 ②学科紹介・取得可能な資格 ③「各学科」の3つのポリシー ④シラバス
(3) 教職員	①組織図・教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	①就職支援 ②卒業後の進路(就職先一覧)
(5) 様々な教育活動・教育環境	①学校行事 ②サークル紹介 ③施設紹介
(6) 学生の生活支援	①学生寮紹介
(7) 学生納付金・修学支援	①学生納付金(入学金・学費・併修費) ②奨学金・教育ローン ③各種免除制度
(8) 学校の財務	①財務諸表等

(9) 学校評価	①自己評価表 ②学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	①日本語科設置 ②アドバンス日本語科設置
(11) その他	①高等教育の修学支援制度における機関要件確認申請書 ②職業実践専門課程の基本情報について

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: https://www.harada-gakuen.ac.jp/career/school/joho_koukai/

公表時期: 令和5年9月29日

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程こども学科)																
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
1	○			保育の对象となる乳幼児の特性や保育の思想・制度の発達などの概観を通して、保育に関する基礎的な知識を培うこと、保育が直面している現実的・今日的で切実な課題にあたることにより、保育に対する見識をもつことを目標とする。	1前	30	2	○			○			○		
2	○			教育の意義・目的について考察し理解する。教育に関する基本的な理論について理解する。日本及び諸外国の現在の教育制度を知る。幼児教育における経験カリキュラムについて理解する。	1後	30	2	○			○				○	
3	○			児童家庭福祉に関する知識を基本的・体系的に学習することで、将来の子ども家庭福祉の実践者としての基礎を習得する。	2後	30	2	○			○				○	
4	○			現代社会における社会福祉の意義を歴史的変遷について理解する。社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家族支援との関連性について理解する。	1前	30	2	○			○			○		
5	○			社会的養護の基本的なしくみ（意義・歴史・体系・権利擁護等）を学び、保育士の役割について理解する。	1後	30	2	○			○				○	
6	○			教育とは何かを考え、教師の役割について理解する。日本における教師の変遷を知り、これからの教師・保育者の在り方について考察する。子どもの社会的発達環境への対応について考察する。幼児教育現場における保育者の役割を理解し、基礎的資質を身につける。	1後	30	2	○			○				○	
7	○			子どもを取り巻く社会環境の変化を点検し、これからの家族や役割、その援助の在り方を考える。地域における子育てセンターとしての保育所の役割を知り、必要性和方法を理解する。	2前	30	2	○			○			○		

8	○			保育の心理学	生涯発達の見点から、心理発達の特徴とプロセスを理解し、発達の援助などについて心理的視点から学んでいく。(特に変化の大きい乳幼児期・児童期を中心に)	2前	30	2	○			○			○
9	○			子ども家庭支援の心理学	現代社会の子育ての問題に関わる保育相談援助の意義についての認識を確かなものにする。専門的な知識と技術の理解を基礎にし、自己の実践を顧みながら取り組んでいく姿勢を身につける。	2前	30	2	○			○			○
10	○			教育心理学	乳幼児の子どもに焦点をあて、保育現場で起こりそうな問題やよく見られる子どもの様子を示し、現場に則した内容で心理学的知見を紹介する。	1前	15	1	○			○			○
11	○			子どもの保健	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。保育における環境及び衛生管理ならびに安全管理について理解する。	2前	30	2	○			○			○
12	○			子どもの食と栄養	発育・発達、疾病と食生活の関連を理解し、家庭や児童福祉施設における食の現状と課題を知る。その改善に向けた食育の基本を学び、地域社会の文化との関わりの中で食育実践法を理解する。	2前	30	2	△	○		○			○
13	○			教育課程総論	幼稚園・保育所における教育課程・保育課程の編成の基本的な考え方を理解することを目的とする。	1前	30	2	○			○			○
14	○			保育内容総論	保育所保育指針における「保育の目標」「子どもの発達」「保育の内容」を関連付けて保育内容を理解し、保育所保育の全体的構造を理解する。養護と教育が一体的に展開すること、保育の「総合性」を、具体的な保育実践につなげて理解する。	1後	15	1	○			○			○
15	○			健康(指導法)	子どもの発達を促すため、身体や健康・環境の理解を深め、子どもの健康に必要な知識とその指導・援助の、技術・技能獲得を目標とする。	1前	15	1	○			○			○
16	○			人間関係(指導法)	子どもの人間関係の形成をめぐる問題について理解を深め、領域「人間関係」の内容及び意義を学習する。人との豊かな「関わり」を育てる保育者としての役割と視点に関する理論・実践課題を学ぶ。	1後	15	1	○			○			○
17	○			環境(指導法)	幼児期における環境の重要性について理解する。幼児教育の場での具体的な実践について考察し、指導の留意事項を理解するとともに環境設定に関する基礎的スキルを身につける。	1後	15	1	○			○			○

38	○		ICT教育入門	基本的な文書作成，幼稚園，保育園で必要となる文書処理技能を習得することを目標とする。 支持率の高いMicrosoft Officeを使い，Word，Excelを使い，目的に応じた文書作成が出来るように学習する。 実務で活用できるように，実践的な課題プリントを配布して実習を進める。 目的に応じた文書作成が出来るように，ツールを使いこなせるようになることを目指す。	1通	30	2	○	△	○								
39	○		接遇マナー	コミュニケーションスキルの基本知識から，傾聴や共感，質問・確認などの基本スキル，報告・連絡・相談や説得などの応用スキルまで，実社会で通用する知識を身につける。	1通	15	1	○	△	○	○							
40	○		英会話 I	基本的単語・文法を理解し，それらの知識をアウトプットに転化する実践的な姿勢と習慣を身につける。	1後	30	2	○		○								
41	○		健康科学	スポーツ活動をライフスタイルの中に位置づけ，自主的・主体的に実践していくために必要な基礎的知識・技術を習得する。	1前	15	1	○		○								
42	○		生涯スポーツ	生涯スポーツに関する理解を深めると共に，健康や体力問題に関心をもって日常的に運動やスポーツを生涯に渡って実践できる能力を養う。	1前	15	1	△		○	○							
43	○		青年心理学	青年期を中心として，老年期まで生涯の成長・発達過程を概観し，発達の基本的な問題について学習する。発達における複合性の視点で，青年期の人間の行動を考える。	2前	30	2	○		○								
44	○		教育相談	話を聞くために必要な，臨床心理学の基本的な知識について知る。子どもや保護者の事例を基に，解決に導いた保育者や援助者の考え方を知る。援助をする人自身の心のケアと連携について知る。	2後	30	2	○		○								
45	○		幼児の心理学	幼児の心理学では，主に幼児期から児童期の子どもものの心理および行動の発達について取り上げることで，保育者が子どもを理解し，保育を効果的に行う知識や方法を身につけることを目指す。	1前	15	1	○		○								

54	○	保育実習Ⅱ	Ⅱでは保育実習Ⅰでの実践を通して学んだ技術と理論を基礎として、保育士として必要な資質や能力、技術を修得する。家庭と福祉の生活実態に触れ、福祉の視点をもった保育士養成を目的とする。Ⅲでは保育実習Ⅰで習得した知識や理論を踏まえ、施設養護に関わる保育士としての職務内容と役割を実践的に学び、深い児童観と人間観をもって子育て支援に必要な能力を養うことを目的とする。（ⅡまたはⅢのいずれかを選択）	2後	90	2				○	○	○		
55	○	保育実習Ⅲ	Ⅱでは保育実習Ⅰでの実践を通して学んだ技術と理論を基礎として、保育士として必要な資質や能力、技術を修得する。家庭と福祉の生活実態に触れ、福祉の視点をもった保育士養成を目的とする。Ⅲでは保育実習Ⅰで習得した知識や理論を踏まえ、施設養護に関わる保育士としての職務内容と役割を実践的に学び、深い児童観と人間観をもって子育て支援に必要な能力を養うことを目的とする。（ⅡまたはⅢのいずれかを選択）	2後	90	2				○	○	○		
56	○	保育実習事前事後指導Ⅱ	Ⅱでは保育実習Ⅰやその他の教科で学習した内容を基盤にし、保育所や子ども・家庭への支援についての理解を深め、保育の実践力を養う。Ⅲでは保育実践に知識や技能を応用する力を養い、保育現実の理解を通して保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的とする。児童福祉施設等での円滑な実習をおこなうための事柄を学習する。（ⅡまたはⅢのいずれかを選択）	2後	15	1	○			○	○			
57	○	保育実習事前事後指導Ⅲ	Ⅱでは保育実習Ⅰやその他の教科で学習した内容を基盤にし、保育所や子ども・家庭への支援についての理解を深め、保育の実践力を養う。Ⅲでは保育実践に知識や技能を応用する力を養い、保育現実の理解を通して保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的とする。児童福祉施設等での円滑な実習をおこなうための事柄を学習する。（ⅡまたはⅢのいずれかを選択）	2後	15	1	○			○	○			
58	○	教育実習	1回目では「幼稚園教諭二種免許状」を取得するための必須の単位であることをしっかりと認識し、実習を開始するにあたり「幼児期の生活と発達の特徴」「幼稚園教育の基本と目標」を確認する。2回目では1回目での学習を下地として、幼稚園教諭としての知識・技術を身につけ、教育観を深めていくことを目標とする。	2前後	120	4				○	○	○		○

59	○		教育実習事前事後指導	幼稚園の機能や内容、教育実習の目的や意義を理解すること、さらに専門教科目で習得した知識や技能と幼稚園における教育実践とを具体的に統合し、教育実習に対する意欲や課題意識を高める。	2前	15	1	○		○	○							
60	○		幼児教育実践(保育技術)	幼児の心理・発達段階・精神状態や集団の空気をつかみ、それに対処する手段や方法、保護者対応を含めた保育現場での諸問題の解決策等演習を通して学び、即実践できる質の高い保育者を目指すことを目標とする。	1 2通	30	2	○	△	△	○	○						
61	○		幼児教育実践(保育実技)	保育に必要な具体的な知識や技能を身につけ、保育実技を通して自ら楽しみ、幼児に楽しさを伝えられる保育者になるよう努める。幼児におけるねらいや育つ上での目的を見出す。	1 2通	30	2		△	○	○	○						
62	○		実習指導(幼・保)	実習の目的を把握・理解する。実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作るとともに、指導計画案の作成や実習日誌の書き方等の知識と技術を身につける。	1 2通	90	6	○	△	△	○	○						
63	○		小児リハビリテーション論	保育者として、発達障害を含む小児リハビリテーションの理解と医療職との現場での協働理解を行うための基礎を知る。	2後	15	1	○			○	○						
64	○		国語表現Ⅰ	将来子どもと接する立場になる学生の国語・表現能力を高めることによって幼児の言語能力の成長に役立たせることを目標とする。	1前	15	1	○			○	○						
65	○		国語表現Ⅱ	保育現場においては、記録や保護者との連携を保育者直筆の文章でおこなうことが多い。自分の思いや考えを伝えるためには丁寧に書くことが不可欠である。そこで文字力を身につけることを目標とし、その姿勢と意識を育てるようにする。	1前	15	1				○	○						
66	○		レッスン(ピアノ)	現場で必要な、必要最低限の楽譜を読む力、ピアノを弾きこなす力、さらに曲の表現まで踏み込めるようコード奏法も含め、現代社会の幼児教育に沿った新しいピアノ実技の在り方を追求する。	1 2通	60	4				○	○	○					
67	○		レッスン(ギター)	ギターの特性を知り就職後、実務で役に立つようコードを学ぶ。	2後	15	1				○	○						
68	○		音楽リズム	幼児教育で必須のソルフェージュの力や音楽学習の基礎的な知識と応用力を養う。歌唱・リズム打ち・和音付けなど、保育現場で実践するために必要な技術を身につける。	1 2通	60	4	△	○		○	○	○					

69	○		一般教養	基礎的な知識の習得を図る学習活動を通して、感じていることや考えていることを活字や言葉で表現できるようにする。且つ社会で不可欠な計算力の定着を目指す。社会人として知っておきたい教養を学ぶ。	1 2 通	30	2	○		○	○			
70	○		キャリア教育	学級や科における生活等，諸問題の解決に取り組むことにより，組織作りや自分自身の資質や能力の維持・向上に努める。一人ひとりの社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育てる。今の自分を見つめ直したり，将来の自分を思い描いたりすることで，自分自身の専門的な資質・能力を維持・向上させていく手段を学ぶ。職業的自立への意識づけを行い，社会人としての在り方を学んでいくことを目的とする。アクティブラーニングを取り入れ「保育をめぐる現状」等，常に把握ができるようにする。	1 2 通	60	4	△	○	○	○			
合計				70科目		1950単位時間(114単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
日数が，各学年の出席すべき日数の3分の2を超えており，教科の出席が時数の3分の2を超え，かつ教科の成績が不可（60点未満）でないこと。また，授業料等が完納していること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。